

生活交通確保維持改善計画

目的・必要性

県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス系統の確保・維持に努めていく。また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを進めるものとする。

評価項目

資料 1 - 4

基礎データ

合併状況: 平成17年度に2町が合併して庄内町、1市4町1村が合併して新鶴岡市、1市3町が合併して新酒田市が誕生し、山形県内の市町村数は44から35になっている。

人口: 1,068,696人(令和2年10月末現在)

面積: 9,323 km²

高齢化率: 30.8% (平成27年国勢調査)

協議会開催数: 協議会5回(内書面協議1回)、各地域別部会3回(内書面協議1回)

事業実施主体及び補助対象系統数・車両数

【系統数】

・山交バス(株)	11系統		
・(株)新庄輸送サービス	1系統		
・庄内交通(株)	2系統	合計	14系統

【車両減価償却費車両数】

・山交バス(株)	19台(3台)		
・庄内交通(株)	1台	合計	20台(3台)

※車両減価償却費車両数の()は、当該年度に購入した車両数(内数)

定量的な目標・効果

【目標】

計画運行回数と計画輸送量を定量的な目標に設定

【効果】

地域間幹線系統路線における移動機会の確保と利用者数の維持と定量的な事業目標を導入することにより、運行費用を抑制や効率的な運行を促進し、適切な受益者負担やサービス水準へ誘導することが期待できる。

前回の事業評価結果及びその反映状況

【前回の事業評価結果】

自己評価のとおり

【反映状況】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・観光需要取り込みを目指し、沿線に観光地や温泉施設がある系統で企画乗車券の販売を実施
- ・沿線の地域や学校においてモビリティ・マネジメントを実施

評価項目

改善のための事業実施の概要、実施状況

【事業実施の適切性】

全ての系統において、計画通り実施された。

【改善のための事業実施の概要】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・沿線の観光施設と連携した取組みの強化
- ・観光利用の促進強化
- ・交通系ICカードの導入に向けた取組みの実施

【改善のための事業の実施状況等】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・バスロケーションシステムの運用
- ・沿線の病院・スーパー・学校等の施設でのPR
- ・貨客混載の実証実験の継続
- ・交通系ICカードの導入に向けた準備

目標・効果の達成状況

【目標・効果達成状況】

A評価 1系統 B評価 13系統

1系統が目標を達成できたが、他の系統においては、新型コロナウイルスの影響に伴う外出の自粛、観光客等の減少により輸送量の目標を達成できなかった。

【目標(指標)及び評価基準】

- A: 目標を達成した(する見込み)
- B: 目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
- C: 目標を達成できなかった(達成できない見込み)

事業の今後の改善点

- 引き続き、新型コロナウイルスへの対応も含め、地域間幹線系統の確保・維持のため、事業者、県、沿線市町村の連携のもと、生産性向上に向けた取組みを推進する。
- 具体的な取組みは、観光客の取込みのための企画乗車券の販売、沿線住民の利用促進と潜在的な需要の掘り起こしのための啓蒙活動、利用しやすい運賃体系の導入(交通系ICカード) など